

I 日本語基礎句型運用練習

例題 1

(例) それを ^み見せます

<普通の会話>

A : ちょっと ^{すみ}すみませんが・・・。

B : はい、何ですか。

A : それを ^み見せてください。

B : ええ、いいですよ。

<フレンドリー会話>

A : ちょっと ^{わる}悪いけど・・・。

B : うん、何?

A : それを ^み見せてくれない?

B : うん、いいよ。

<フォーマル会話>

A : あのう、ちょっと ^{すみ}すみませんが・・・。

B : はい、何ですか。

A : それを ^み見せていただけませんか。

B : はい、いいですよ。

(1) ^{でんわ}電話を ^か貸します

(2) この ^{にもつ}荷物を ^{あず}預かります

(3) カメラの ^{シャッター}を ^お押します

(4) ^{せき}席を ^か代わります

(5) ドルを ^{えん}円に ^か換えます

(6) もう ^{すこ}少し ^{おお}大きい ^{こゑ}声で ^{はな}話します

(7) もう ^{いちど}一度 ^い言います

(8) もっと ^{ゆる}ゆっくり ^{ある}歩きます

(9) もっと ^{わかる}わかるように ^{せつめい}説明します

(10) ここに ^{ちず}地図を ^か書きます

(11) ^{はいざら}灰皿を ^と取ります

(12) テープの ^{おと}音を ^{おお}大きくします

例題 1 <解説>

「て形」と「ない形」の作り方

★ 五段活用 of 動詞

五段活用 of 動詞の「ない」形や「て」形は、「書かないー書きますー書くー書いて」のように、そのまま連続させて口調で覚えるのが一番早い方法です。

か	ない	が	ない
書	きます	泳	ぎます
く		ぐ	
い	て	い	で

★ 一段活用 of 動詞

<「-i-る」動詞><「-e-る」動詞>動詞の99%は、一段活用 of 動詞ですが、「走る/入る/要る/知る/帰る/切る」など一部例外の五段活用 of 動詞がありますから、これだけ別に覚えましょう。

<「-i-る」>	<「-e-る」>
ない	ない
起	寝
き	ます
る	ます
て	る
	て

★ 変格活用 of 動詞「する」と「来る」

しない→します→する→して
来 [こ] ない→来 [き] ます→来 [く] る→
来 [き] て

相手によって変わる依頼表現

相手によって言い方が変わることを待遇表現と言いますが、その代表例が依頼表現です。

例題 2

(例) 1) 窓を ^{まど}開けます 2) 寒い ^{さむ}です

<普通の会話>

A : 窓を 開けても いいですか。

B : すみませんが、寒い ですから、
開けない ください。

<フレンドリー会話>

A : 窓を 開けても いい?

B : ごめん、寒い から、開けない で くれない?

<フォーマル会話>

A : 窓を 開けても よろしい で しょうか。

B : 申し訳 ご ざ い ま せ ん が、寒い で す か ら、
開けない で い た だ け ま せ ん か。

- (1) 1) 部屋 ^{へや}に 入り ^{はい}ます
2) 部屋 ^{へや}が 汚 ^{よご}れて います
(2) 1) ここで タバコ ^すを 吸 ^すいます
2) 小さい ^{ちい}い 子供 ^{こども}が います
(3) 1) この こと ^{こと}を みんな ^{みんな}に 話 ^{はな}します
2) まだ 結論 ^{けつろん}が 出 ^でて いません
(4) 1) この パソコン ^{パソコン}を 使 ^{つか}います
2) 今 ^{いま}、使 ^し用 ^{しよう}中 ^{ちゆう}です
(5) 1) ここ ^{ここ}に 自 ^{じてんしゃ}転 ^{てん}車 ^{しゃ}を 置 ^おきます
2) 店 ^{みせ}先 ^{さき}です
(6) 1) この 資料 ^{しりょう}を コピー ^{コピー} し ま す
2) 部 ^ぶ外 ^{がい}秘 ^ひの 資料 ^{しりょう} で す
(7) 1) 電 ^{でん}気 ^きを 消 ^け し ま す
2) まだ 今 ^{いま} か ら 勉 ^{べんきよう}強 ^{きやう} し ま す
(8) 1) この 席 ^{せき}に 座 ^{すわ} り ま す
2) 連 ^つれ が ま も な く 来 ^き ま す

例題 2 <解説>

許可 (個人的判断) の応答

許可表現は個人の判断で許可するときにも、法律・規則・社会常識などから考えて当然認められていると思うときも使えます。

例題2のように、個人の事情や判断で許可するときは「ええ、どうぞ」、断るときは「すみませんが、～から～ないでください」のように言うのが普通です。

A : 田中さん、部屋に入ってもいいですか。

B : → ええ、どうぞ。

→ すみません。今、入浴中ですから、
ちょっと待ってください。

ただし、例外があります。例えば、親が子に言うときや、医者が患者に忠告するときや、教師が学生を叱るときなど、指導監督の立場にあるものが目下に指示するときには、「～でもいい」や「～ではいけない」が使われます。

A : お母さん、テレビを見てもいい?

B : → ええ、見てもいいわよ。

→ いいえ、見てはいけません。宿題を先

例題 3

- (例) 1) ここで タバコを 吸すいます
2) 駅構内えきこうないは 禁煙きんえんです

<普通の会話>

- A : ここで タバコを 吸すっては いけません。
B : どうしてですか。
A : 駅構内えきこうないは 禁煙きんえんですから。

<フレンドリー会話>

- A : ここで タバコを 吸すっては いけない。
B : どうして?
A : 駅構内えきこうないは 禁煙きんえんだから。

- (1) 1) この 手紙てがみを 読よみます
2) 娘宛むすめあての 手紙てがみです
(2) 1) ここで 泳およぎます
2) 危険きけんです
(3) 1) 明日あした 授業じゅぎょうに 遅おくれます
2) 試験しけんが あります
(4) 1) 図書館としょかんで おしゃべりします
2) 人の 迷惑めいわくに なります
(5) 1) 工場内こうじょうないで 写真しゃしんを 撮とります
2) 撮影禁止さつえいきんしです
(6) 1) 髪かみを 長ながく 伸のばします
2) この 学校がっこうの 校則こうそくです
(7) 1) 車内しゃないで 携帯電話けいたいでんわを 使つかいます
2) 他の 人の 迷惑めいわくに なります
(8) 1) 嘘うそを つきます
2) 人の 信頼しんらいを 失うしないます
(9) 1) この ことを 人ひとに 話はなします
2) 企業機密きぎょうきみつです
(10) 1) そこに 触さわります
2) ペンキ塗ぬりたてです

例題 3 <解説>

許可 (社会的判断) の応答

初級の教科書によく出てくるこのような会話例があります。

- A : ここに座ってもいいですか。
B : → はい、座ってもいいです。
→ いいえ、座ってはいけません。

これは大変誤解を招く例文です。既に述べたように、日常の個人的な会話でこの表現が使われることはないからです。

この「～でもいい」「～はいけない」が使われるとしたら、例題3のように、法律・規則・社会常識などから考えて許可されているか、どうかについて、相手に情報を伝えるときです。

- A : この公園でサッカーをしてもいいですか。
B : → はい、してもいいですよ。

例題 4

配達員：宅配便です。こちらに 印鑑を (A)。

A : サインで かまいませんか。

配達員：はい、(B)。

(1) (A) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① どうぞ ② ください
③ もらえませんか ④ お願いします

(2) (B) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① いいです ② かまいません
③ けっこうです ④ わかりました

例題 5

A : ちょっと 消しゴム、貸して (A) ?

B : うん、(B)。

A : ついでに 辞書も お願い。

B : 悪いけど、今 使ってるから、終わるまで
ちょっと (C)。

(1) (A) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① ください ② くれ
③ くださいませんか ④ くない

(2) (B) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① いいです ② わかりました
③ どうぞ ④ いいよ

(3) (C) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① 待て ② お待ちください
③ 待って ④ 待って ください

例題 4 <解説>

「～で／て - いいですか」の形

「これ」や名詞にゆく「～でいいです」や、「～
ていいですか」という「も」のない形も使われ
ます、この場合、語感としては依頼というよりも、
相手の承認を求める表現になります。

A : 明日で (も) いい? / 入って (も) いい?

B : うん、いいよ。

「お願いします」と「けっこうです」

「ください」より「お願いします」の方が丁寧
な言い方です。また、(B) に「いいです」を使うと、
許可を与える語感になりますが、「けっこうです」
は「こちら (私) は問題ありません」という同意
の表現になります。

お客相手の会話で使う「お願いします」「けっ
こうです」を覚えておきましょう。

例題 5 <解説>

「～てくれ」と「～てくれない?」

「～てくれ」は男性専用の話し言葉で、依頼と
いうよりも要請・指示に近い言い方になります。
親しい友だちや目下の人に使うのは許されます
が、通常は男の上司が部下に仕事の指示をする
ときなどに使う言葉です。

その点、「～てくれない?」は男女に関係なく
親しい友人や同僚間や目下に対する依頼に使え
る話し言葉です。ただし、目上の人には使えま
せんから、注意してください。

なお、この「～ていただけませんか／～ても
らえませんか」など、「～ませんか (→ない?)」
がついた依頼表現は、意味上、許可を求めている
場合も多く、その場合の返事は目上やあまり
親しくない相手には「ええ、どうぞ」、親しい同
僚や目下「うん、いいよ」のように答えるのが
普通です。このように依頼と許可は連続した表
現で、場面によって応答の仕方は変わってきま

例題 6

木村：ごめんください。隣の^{となり}木村^{きむら}ですが、・・・。

A：あつ、木村さん、少々^{しょうしょう}（ A ）。

あのう、何か^{なに}ご用^{よう}でしょうか。

木村：申し訳^{もうわけ}ありませんが、私の^{わたくし}家^{いえ}には赤ん坊^{あかぼう}がおり

ますので、ステレオの^{おと}音を^{すこ}少し^{ちい}小さくして
（ B ）。

A：あつ、すみません。すぐ^ま小さく^{ちい}します。

(1) (A) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① 待つて^ま ② 待つて^ま ください
③ 待たせて^ま ください ④ お待ちください

(2) (B) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① ください ② くない
③ もらえませんか ⑤ いただけないでしょう

か

例題 7

A：あのう、課長^{かちょう}、お願い^{ねが}があるんですが、…。

課長：うん、何^{なに}？

A：朝^{あさ}から どうも 具合^{くあい}が悪^{わる}くて、それで、申し訳^{もうわけ}
ありませんが、今日^{けふ}は（ A ）。

課長：そういえば 顔色^{かおいろ}が悪^{わる}いね。（ B ）。

(1) (A) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① 早退^{そうたい}しても いいですか
② 早退^{そうたい}して くださいませんか
③ 早退^{そうたい}させて ください
④ 早退^{そうたい}させて いただけませんか

(2) (B) の中に入る適当なものはどれですか。

- ① かまわないよ ② けっこうだよ
③ 大丈夫^{だいじょうぶ}だよ ④ どうぞ

例題 6 <解説>

依頼から始まる日本人の苦情

日本人が苦情を言ったり抗議をするときは、ほとんどの場合、最初は穏やかな依頼口調から始まります。常に穏便に解決したいという心理が働くからです。

外国の方はそれを知らないことが多く、最初から強い口調で抗議に入ったり、逆に日本人から穏やかな依頼口調（微笑していることも多い）で言われたとき、その怒りや抗議の感情が理解できず、失敗することになるのです。

苦情を言われたときは、「すみません」と相手に迷惑をかけたことをまず詫言るのが日本式です。反論したいときは、「すみませんでした。でも、～」のように柔らかく自分の事情や立場を訴えますが、自分が悪いときは弁解しない方がいいですね。

例題 7 <解説>

丁寧な依頼は「あのう」から

「あのう」は、相手の注意を自分に向けさせる呼びかけの語ですが、同時に依頼する気持ちを遠慮がちに伝えます。そして、この一言で、聞き手の日本人は何か困っていることがあるだろうと瞬間に察知してくれます。逆に「あのう」のない依頼は、時として無遠慮な語感を相手に与えてしまう可能性があります。

「～（さ）せてください」の用法

「使役形＋てください／いただけませんか…」も許可を求める表現ですが、何らかの義務や責任が伴っているときの言い方です。「～でもいいですか」は私的な許可の求め方、「～（さ）せてください／いただけませんか…」は公的な許可の求め方と言ってもいいでしょう。ですから、会社で部長としての公的立場からの判断を

5. 義務と勧告の表現

よく使う文型

- [ない]形 : ~なければ なりません
- [ない]形 : ~なくても いいです
- た形/ない形 : ~方が いいです
- た形 : ~ら いいです
- た形 : ~ら どうですか
- 原形 : ~べきです

要点の整理

* 相手の義務を表すときの使い分け

フレンドリー会話	普通の会話	フォーマル会話
~なければ ならない	~なければ なりません	*~方が いいと 思います
~なければ いけない	~なければ いけません	*~たら いかがですか
~なくては ならない	~なくては なりません	*~て いただけませんか
~なくては いけない	~なくては いけません	
~なきや (ならない/いけない)		
~なくちゃ (ならない/いけない)		
~なきや だめだ		

* 「~なければならぬ」(義務)の表現で気をつけること

「~なければなりません」は相手に向けられるときは実質的な命令に近づきますから、目下から目上に対しては使わない言葉です。そのため、相手が同僚であっても、普通は「~てください/~方がいいです」のような依頼表現を使います。相手が目上であれば、「~方がいいと思います」や「~ていただけませんか」のような言い方になるでしょう。

- A : このことは今日中に決めなければなりませんか。
- B : ええ、今日中に決めてください。 <依頼>
ええ、今日中に決めた方がいいです。 <勧告>

* 「~方がいい」(勧告)の表現で気をつけること

「~方がいいです」は広く勧告に使われる表現ですが、この表現も、そのまま目上に使うと大変失礼になりますから、日本人はほとんどの場合、「~たらいかがですか」と提案の表現を使います。仮に使うとしても、「~方がいいと思います」や「・・・」や「~方がいいんじゃないでしょうか」のように婉曲な言い回しをします。